

【第19回 建築祭に寄せて】

／360° (株式会社三六〇度) 代表 納谷 新



360° (自邸)



長野県学生卒業設計コンクール審査風景

考えてみるとここ数年、長野県に通っている。プロジェクトがいくつか続いていたからである。「野辺山の住処 2019」「青木湖の住宅 2021」「ORCHARD2022」「光の森の家 2024」さすがは長野県「ORCHARD2022」以外、敷地は全部森の中であった。

そして 2025 年、第 19 回建築祭の一環である文化講演会では「建築という環境」というタイトルでスピーチをすることになった。建築を設計する時にわれわれはいつも取り巻く環境（自然・都市・インフラ・家族など）を手がかりに設計するのだが、その後は完成した建築そのものがその場や地域などそれぞれの環境になると考えていて、事例や普段考えていることをレクチャーさせてもらった。

第 3 回 JIA 長野建築賞 2024 で優秀賞をいただいた「ORCHARD2022」は、8 棟の戸建てアパート群の 3 棟を解体し 1 棟を減築してシェアキッチンにする計画である。つまり人口減少が進む地方都市において、建築単体をただリノベーションして更新するのではなく、解体して間引くことで建築群の環境を整えるだけではなく、できた空地やシェアキッチンを近隣に開くことにより地域の環境も整えたのである。建築が新しい環境になった分かりやすい例で、これから地方の賃貸戸建てアパートが生き残っていくひとつのモデルになればと思った。

「野辺山の住処 2019」「青木湖の住宅 2021」「光の森の家 2024」では、建築という人工物が森の中にできることで違和感を生むのではなく、自然でも人工でもないその間のようなものになればと思って設計している。外部と内部が切り離されるのではなく、森の中に巣をつくるイメージ、森の中に少し空間の深み（新しい居場所）を増すイメージである。

そのようなこと「建築という環境」を頭の隅に置きながら長野県学生卒業設計展に臨んだ。

高校から専門学校、大学まで 42 作品を審査させてもらい、どれも力作揃いでその中から数作品を選定するのはとても難しかったが、前述のことを基準にそれぞれ金賞、銀賞、銅賞、奨励賞を選ばせてもらった。

最近の建築界の一部の傾向として、ソフト重視の建築設計が多いと感じていて、それは学生にも同じことが言えると思っていたところ、今回の卒業設計にもそのような設計が多く見られた。ソフトを考えることはもちろんなくてはならないことであるが、その上で設計するハードである建築そのものも強く影響するというのを感じて欲しい。ソフトとハードが揃って初めて物語は完成するのである。その中で高校生が自由に伸び伸び楽しそうに建築をつくっているのが印象的だった。専門学校、大学と学年を重ねていくうちに技術や理論は身につくプレゼンテーションのクオリティも、もちろん上がっているが、建築を楽しくつくるといった根本的なことを目の当たりにした審査だったのではないだろうか。それは JIA 長野県クラブ独特の合同で行う審査により見えてきたことでもある。とても有意義な 2 日間であった。



第19回 建築祭を終えて

【 事業委員会 委員長：鎌田 賢太郎 】

第19回建築祭を無事に終わることができました。会員の皆さまには、多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。また、貴重なご講演をいただき、卒業設計コンクールの審査委員長を務めていただいた納谷先生、審査員を務めてくださった松本市美術館の小川館長、JIA 関東甲信越支部の渡邊支部長、JIA 山梨地域会の奥村様、JIA長野地域会の長島副代表の皆さまには、長時間にわたる審査にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

本年度より事業委員長を務めさせていただきました。長年、事業委員としての経験があり、慣れていたつもりでしたが、講師の選定段階から問題が発生し、全体のスケジュールが大変タイトになる場面もありました。しかし、委員の皆さまの尽力により、無事に開催へとこぎつけることができました。当日は、委員並びに会員の皆さまが自主的に動いてくださったおかげで、スムーズに進行できました。ただ、2日目の昼食でコースランチの提供が予定時間内に収まらず、午後の部のタイムテーブルを急遽組み直す必要が生じるというトラブルが発生しました。結果的には対応でき、予定の終了時間内に収めることができましたが、統括と司会を兼務することの難しさを痛感しました。これは次回に向けた重要な改善点としていきたいと思っております。

毎年、建築祭に参加することで、先を走る講師の建築家と、それを追いかける建築学生の姿を見ながら、自分自身を振り返る機会を得ています。事業委員長を拝命してからは、JIA 長野県クラブにとって、この建築祭が県内の建築学生との貴重な接点であり、本会の社会的役割を示す場として、年に一度の最も重要なイベントであると再認識するようになりました。

来年度は、松本市美術館のホールが使用できないため、勤労者福祉センターと松本市美術館を併用しての開催となります。未経験の会場での開催となるため、例年通りとはいかない点多々出てくるかと思いますが、引き続き、会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



第34回長野県学生卒業設計コンクール 受賞者の声

【 大学の部 金賞：信州大学 工学部建築学科 手島 理沙 】

この度は長野県学生卒業設計コンクールにおいて金賞を受賞でき大変光栄に思います。一般の来館者の方もいらっしゃる中での審査は初めての経験で新鮮でしたが、審査員の皆さまの温かい眼差しのおかげで緊張することなく思いを伝えることができました。

本作品では哲学堂公園というユニークな場所との出会いを起点に、哲学と土木を新たな居住空間の構成要素として紐解きました。以前から建築のスケールを超越した空間に可能性を感じており、今回は調節池の形態を踏襲した学生寮を提案しました。建築と土木のスケールの融合を試みましたが死に説得力を持たせることが難しく、審査員の皆さまからたくさんアドバイスを頂きました。今後はより良い提案となるようブラッシュアップを続けるとともに、私自身の建築観を追究していく時間になりたいと思っております。

最後に、このような貴重な経験を得る機会をくださった運営の方々、並びに審査員の皆さまに心より御礼申し上げます。

【 専門学校の部 金賞：上田情報ビジネス専門学校 建築インテリア科 篠原 光 】

「建築っておもしろそう！」建築について右も左もわからない高校三年生の時にパンフレットを見た私はそう思いました。そして、そこから私の建築人生のスタートでした。

そして私は専門学校へ進学し、今回の作品に二年間のすべてを注ぎ込みました。私は思いました。「最近の子供たちって画面しかみてないな」それが保育園を設計するきっかけでした。子供たちはもっと自分の発想で自分らしさを表現してほしいと思い、建物の形をジャングルのようなポコポコにしました。形は自分が納得するまで何十個も案を出しました。とても大変でしたが今となればいい思い出です。作品は学校での発表では賞を取れませんでした。コンクールでは思ってもいなかった金賞を頂く事ができました。とても嬉しかったです。今回設計したような保育園を私は広めていきたいです。そして、今回アドバイス頂いた事や次の設計がより良いものになるよう活かしていきたいです。改めて「建築って楽しいな」そう思えました。本当にありがとうございました。

高校の部 (23作品 28名参加)

- 金賞 茂木美羽 「MEGU」(市民賞※) (飯田OIDE長姫高校)
- 銀賞 伊藤謙臣・矢嶋快成 「長野工業高校建替え計画」(長野工業高校)
- 銅賞 水出瑠惟 「寿」 (上田千曲高校)
- 奨励賞 下枝愛希 「食ばん一斤！」 (飯田OIDE長姫高校)

※市民賞は全42作品中、来場者の投票で最多得票を得た作品に贈られる賞です

専門学校の部 (7作品 7名参加)

- 金賞 篠原 光 「ソウゾウの秘密基地」
- 銀賞 芦澤仁美 「うるわしの縁」
- 銅賞 小松寛人 「ハコノバ」

(上田情報ビジネス専門学校)

大学の部 (12作品 12名参加)

- 金賞 手島理沙 「人と土木の共生学」
- 銀賞 松林瞳明 「参道リノベーション」
- 銅賞 塩谷莞司 「3つの暮らし、1つの輪島」
- 奨励賞 鈴木皓大 「アトリエのときへ」

(信州大学)

新入会員紹介



【 法人協力会員：合津嗣人 株式会社合津建材 】

木質断熱材、ウルト製品、クレイペイント等を中心に自然素材や環境にやさしく、断熱、気密に特化した商品を取り扱っております。宜しくお願いいたします。

開催したイベント 12月6日(金).....冬のセミナー
2月22・23日(土・日)....第19回 建築祭

今後の行事予定 4月18日(金).....2025年度 通常総会

編集後記

第19回建築祭を終えての特集になります。卒業設計コンクールでは、学生さんたちの意欲と希望あふれる作品にときめいたり審査委員の方々の真摯な講評に聞き入ったり、どなたにも有意義な時間だったと思います。事業委員会の方々はじめ運営に携わった方々、ありがとうございました。お疲れさまでした。

広報委員会副委員長 百瀬万里子
皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せください。

編集人/百瀬万里子 発行人/山田健一郎

発行所/JIA 長野県クラブ
長野県南長野妻科 426-1 長野県建築士会会館内
TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303



公益社団法人日本建築家協会

<https://www.jia-nagano.com>
E-mail info@jia-nagano.com